

後場は値を縮め、小幅安引けとなった。

NY銅相場は1.30セント安の314.20セントと反落。前日の大幅上昇による反動安となった。

NYカーブは6,933~6,934.75ドルとなり、LME先物比11.13ドル安となった。

### 錫は在庫減で2万ドル回復

LME錫相場は270ドル高の2万135ドルと続伸。在庫減で上昇、2万ドルを回復した。

### 鉛は在庫減を手掛かりに続伸

LME鉛相場は27ドル高の2,090.5ドルと続伸。在庫減を手掛かりに続伸となった。

### 亜鉛は在庫減を受け上昇

LME亜鉛相場は27ドル高の1,868.5ドルと続伸。在庫減を受け上昇して引けた。

### アルミは在庫減を好感し続伸

LMEアルミ相場は24ドル高の1,795ドルと続伸。在庫減を好感し続伸、1,800ドル手前。LMEアルミ合金は30ドル高の1,807.5ドル、北米特殊アルミ合金は30ドル高の1,892ドル。

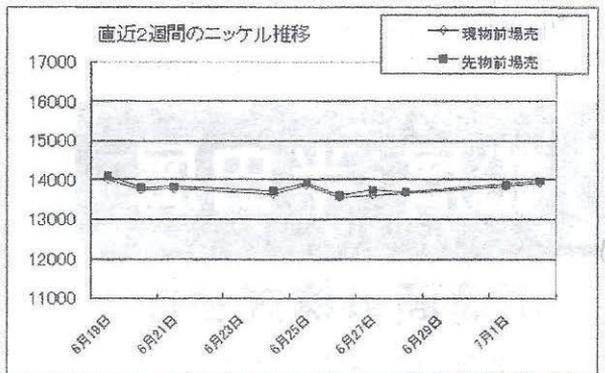
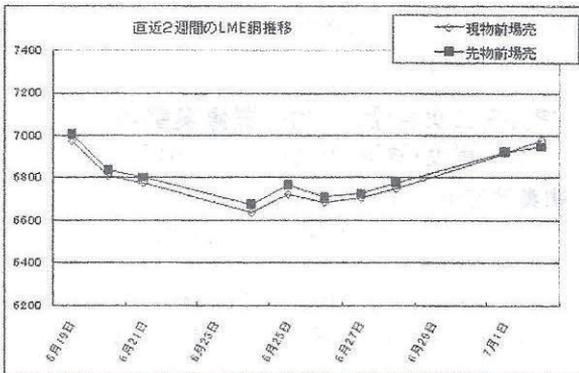
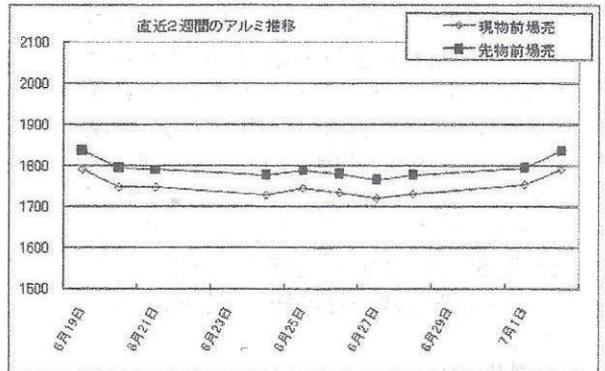
### ニッケルは僚品高で1万4千ドル手前

LMEニッケル相場は85ドル高の1万3,970ドルと続伸。僚品高で上昇、1万4千ドル手前へ。

### KLTM錫は119.9セント大幅続伸

#### 採算値は5万2,000円高

KLTM錫は前日相場と比べ119.9セント高の63.958Mドルと大幅続伸。USDドルは299ドル高の2万100ドルで出来高は60トン。Mドル/USDドルレート=3.1820とTTSレート101.72円で換算した採算値は5万2,000円高の204万9,000円、諸掛込みの採算値は5万2,000円高の220万9,000円。



### 銅スクラップ6月レポート及び7月見通し

橋本健一郎氏

■概況:前半はECB(欧州中央銀行)による利下げ観測や、インドネシア・グラスベルグ銅山の落盤事故からの操業再開の延期などプラス材料はあったが、引き続き米FRBによる金融緩和縮小懸念や4月のユーロ圏小売売上高が-0.5%と予測を下回った事。中国貿易統計で輸出が+1%と予測の+7.3%を大幅下回ったことから7045ドル(セツル)と前月最終価格より285ドル下げの前半締めとなった。

後半は中国中央銀行による金融引き締めで短期市場の金利が7%から14%まで上昇したこと、6月HSBCのPMI指数が48.7と2カ月連続で50を下

回ったことなどから、一時6630ドル台まで暴落するも、中国当局が金利を適正水準まで誘導するとコメントや6月の米ISM製造業指数が50.9%と予測を上回った事、4月のケースシラー住宅指数が+12%と7年ぶりの高水準だったことから下げ幅を圧縮、7月2日現在、前半締めから128ドル下落の6917ドル、建値71万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比-6.2%の73万2714台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-15.8%の26万6913台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+9.4%の7万9751戸であった。

貿易関連指標では、財務省貿易統計による輸

出は前年比で電気銅が+10.7%の4万8578t、スクラップが+21.4%の2万7933t。輸入は電気銅が前年比-53.3%の1270t、スクラップが-38.3%の4851tだった。

また前月の国内指標では、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)は前年比-2.5%の6万3680t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前年比+2%の5万2900tであった。

■見通し:6月は中国の金融引き締め観測と米国金融緩和縮小観測に一喜一憂した月となった。中国中央銀行による金融引き締めで短期市場の金利が7%から14%まで上昇したことやFOMC後のバーナンキ発言で金融緩和縮小が近いとの認識。

自動車生産は前年比-6.2%の9カ月連続マイナス。国内向け、輸出向け生産が共にマイナスへ。販売の方はついに二桁悪化前年比割れの-15.8%。貨物車、乗用車が共にマイナスだった。新設住宅着工戸数は先月に続き9カ月連続増加、前年比+9.4%(前月比(季節調整済み)+14.5%)の7万9751戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲マンションが+33%と大幅増。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比-2.5%の6万3680tと7カ月連続マイナス。ただ自動車、スマホ関連の板条は改善。輸出も+3.9%と円安を追い風に6カ月連続6万t乗せ。銅電線出荷量は、前年比+2%の52900tと6カ月ぶりプラス。うち電力・建設、電販は13カ月連続プラス。機械・自動車は9カ月連続マイナス。輸出が+8.7%とこちらも円安の恩恵に。自動車の減少幅の拡大が影響したものの円安効果から全体として増加したとの見解。

輸出に関しては電気銅輸出が前年比+10.7%の4万8578tと大幅増。銅スクラップは+21.4%の2万7933t。内需の一服と円安による採算改善。

輸入は電気銅が-53.3%の1270t。スクラップは-38.3%の4851t。電気銅、スクラップとも内需の一服や円安による割高感から大幅減少。

銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+9.4%9カ月連続増加、分譲マンションが+33%と絶好調、ただ自動車は生産が9カ月連続前年割れが続き内需不安から不透明。6月の国内販売台数も-15.8%と大幅悪化。為替が再び98-100円近辺で推移してることから先行きに黄信号。内需は様子見の一服モード。

銅価格に関しては、米国、中国の金融政策に一喜一憂する事が予測される。米国の金融緩和縮小はこのまま失業率が7%台を推移していれば購入規模を縮小する可能性が高い。中国の金融政策に関しては一旦引締めに動いたものの金利が跳ね上がった事から即、貸し出しを再開した経緯を考えれば、あまり危惧する必要もないが、中国当局の基本スタンス(バブルつぶし)は明確化されたことからこれまでのような資金調達には期待できず、やや引き締め気味になるとの予測から上値は6月前半高値付近の7400ドルを予測。

下値は米国金融緩和の縮小が行われた場合や中国の引締めが行われた場合再び失望感から暴落する可能性が高く6月最安値からもう一段安(100ドル)の6700ドルを予測。為替はAve98円と予測。銅建値に関しては690-760円程度と予測している。

	3月	4月	5月
生産台数	82万3145台	74万7730台	73万2714台
前年比	-16.4%	-6.5%	-6.2%
	4月	5月	6月
販売台数	21万3165台	21万9099台	26万6913台
前年比	+2%	-7.8%	-15.8%
	3月	4月	5月
新設住宅着工数	7万1456戸	7万7894戸	7万9751戸
前年比	+7.3%	+5.8%	+9.4%
	3月	4月	5月
輸入	1618t	5059t	1270t
前年比	-57.5%	+1.7%	-53.3%
	3月	4月	5月
スクラップ	5850t	5170t	4851t
前年比	-18.2%	-26.7%	-38.3%

輸出	3月	4月	5月
電気銅	7万1千t	4万4901t	4万8578t
前年比	+23%	-4.1%	+10.7%
スクラップ	3万845t	2万8275t	2万7933t
前年比	-14.2%	-11.7%	+21.4%

